

2016WORLD ROWING SENIOR, U23 & U19 CHAMPIONSHIPS REPORT 9 (8/23)

大会三日目も各クルー、カテゴリー別に朝食に行いました。

昨日までとは打って変わって素晴らしいコンディションになりました。この日はシニア・U23両カテゴリー併せて7種目のレースが行われます。

トレーニングの様子(8/23)



非常に多くの艇で混雑する朝のコース
(手前が日本代表BLW2x)



昨日までとは打って変わって穏やかな
水面になった



LM1x池田選手(トヨタ紡織)



BLW2x 左からS成瀬選手(明治大学)、
B角谷選手(立教大学)



日本代表チームの拠点となっている
テント



JM4x 左からB河畑選手(美方高校)、2
石塚選手(田村高校)、3江島選手(青井
高校)、S吉田選手(加茂高校)



JW4x 左からB四方選手(朱雀高校)、2
宇都宮選手(今治西高校)、3河原選手
(若狭東高校)、S松井選手(今治西高校)



JW2x 左からB國元選手(唐津商業高
校)、S新田選手(美方高校)



JM2x 左からS遠山選手(伏見工業高
校)、B瀬戸選手(日本大学)

9:45 BLM2x 準決勝C/D

昨日までとは打って変わって素晴らしいコンディションに恵まれた中スタート。3位までがCファイナルに進める。スタートからほぼ横一線。主導権を握りたいところだが、アメリカとチェコに僅かに先行され3位で500mを通過。1位アメリカから4位リトアニアまでが2.53秒差に収まる混戦模様でレースは進んでいる。

第2クォーターに入り日本が仕掛ける。3位の座を奪いとうとするリトアニアを逆に突き放し、2位をいくチェコをかわし1000mは1位アメリカに続き2位で通過。ここから日本とチェコが激しい2位争いをしながら4位リトアニアをさらに引き離していく。1500mはチェコに再び先行され3位で通過。ラストパートに入るとリトアニアが息を吹き返して日本とチェコに迫ってきたが、落ち着いて対処し3位でゴール。C決勝に進むことになった。



艇に乗り込み漕ぎだす準備をするBLM2xクルー



チェコと激しい2位争いを繰り広げる日本



最後の力を振り絞る日本クルー

10:45 BLM1x 準々決勝

3位までが準決勝に進出することができる。スタートからオランダ、イギリス、メキシコ、ブラジルがほぼ横一線で並び少し遅れて日本、モルドバが続く。第2クォーターに入り何とか前との差を詰めたい日本だが、上位4か国との差は中々詰まらずに逆に突き放されてしまう。1000mは変わらず5位で通過も3位イギリスとの差は4.39秒と少し開いてしまう。第3クォーター、上位争いからはオランダが脱落して勢いがなくなってきたが、日本もモルドバに抜かれ順位を最下位に落としラストクォーターを迎える。ラストクォーターも上位3か国との差は大きく開き万事休す。6位でレースを終え準決勝A/B進出はならなかった。



出艇しスタート地点に向かう日本:
BLM1x古米選手(日本大学)



1800m付近。何とか差を詰めようと力漕する日本:
BLM1x古米選手(日本大学)



最後まで熱いレースを見せてくれた
日本:BLM1x古米選手(日本大学)

11:05 LW1x 敗者復活

序盤からアメリカ、イギリスが飛ばしチェコ、日本、イタリアが追う展開に。500mの通過は4位だが、トップアメリカとは2.24秒差、また2位イギリスとは1.81秒差と日本もレースの流れにしっかり対応している。しかし第2クォーターに入ると上位2か国が争うように3位チェコ以下との差を空けに仕掛けてきた。チェコ、日本、イタリアはこれについていくことができずじりじりと水が空いていった。1000mの通過は変わらず4位ではあるが、2位イギリスとの差は4.19秒に開いた。第3クォーターでは日本はイタリアと激しく競り合うが徐々に前に出られ1500mを5位で通過。ラストクォーターも何とか追い上げようとするが及ばず5位でゴール。準決勝A/B進出はならなかった。



引き締まった表情でレースに向かう日本：
LW1x上野選手(明治安田生命)

必死に前を追う日本



準決勝A/B進出はならなかったものの気持ちのこもった
熱いレースはこの後の日本代表チームに力を与えること
になった。日本：LW1x上野選手(明治安田生命)



11:25 LM2- 敗者復活

スタートから各国が主導権争いを繰り広げる中、日本は我慢しペースを守る。500mの通過は最下位の5位であるが、1位ポルトガルとの差は3.7秒、3位ノルウェーとの差は1.78秒差と十分にチャンスを伺えるポジションをキープする。第2クォーターの前半は前のクォーターの流れで多少差は開いたものの、各国のペースが落ち着き始めると日本のスムーズなリズムが後半の躍進を予感させてくれた。1000mは変わらず5位で通過、差も多少開いたもののここから流れは日本に傾いてきた。第3クォーター、他の国が少しずつ苦しくなってきたところで日本がジワリとポジションを上げ、まず4位を行くノルウェーを攻略し1500mを4位で通過。3位までが準決勝に進出できるが、1位イタリアから4位日本までが2.54秒差に収まる混戦状態でラストクォーターに突入。ここから狙いすましたかのようなスパートを見せたのは日本だった。中学から大学まで同じチームで培ったS奈良選手(新日鐵住金)、B小林選手(戸田中央総合病院RC)のコンビネーションがここの一番で発揮されポルトガル、イタリアを鮮やかに抜き去り一位に浮上したスペインを追い詰めていった。最終的には1位でゴールするには少し距離が足りなかったが、1位スペインとは0.1秒差の2位で準決勝A/B進出を決めた。



スタート地点に向かう日本



ゴール前、鮮やかなラストスパートで一気に2ヶ国を抜き去る日本(手前)



準決勝A/B進出を決めた日本:
LM2- 左からS奈良選手(新日鐵住金)、B小林選手(戸田中央総合病院RC)

16:25 BLW1x 準決勝A/B

このレースからU23カテゴリーの決勝進出をかけた戦いが始まった。トップバッターはLW1xの高島選手。スタート直後にミスオールをし、引き離されたものの、追いつくために積極的に仕掛けていきレースの流れについていく。500mの通過はオランダ、スウェーデン、南アフリカ、ルーマニアに次いで5位で通過ながらも、1位オランダとの差は1.84秒差。決勝進出ラインの3位南アフリカからは1.70秒差としっかり食らいついていく。第2クォーターもこの流れに乗っていきたいところだが、700mを過ぎたあたりからじりじりと離されていくが、1000mの通過では3位スウェーデンとの差は5.90秒差。これ以上は離されたくはない。

しかし、前半から積極的に仕掛けた影響からか第3クォーターに入ると上位4か国との差はさらに広がり苦しい展開に。ラストクォーター、残る力を振り絞るも及ばず5位でゴール。7位～12位を決めるB決勝に回ることになった。



スタート地点から自らのレーンを確認する日本:BLW1x高島選手(明治大学)



500m地点で1位オランダ(真中)に食らいつく日本(手前)



ラストクォーターで必死に追い上げようとする日本:BLW1x高島選手(明治大学)

16:35 BLM2- 準決勝A/B

3位までが決勝に進出する大一番。スタートから多少出遅れるもレースの流れにはついていながら500mをトルコ、アイルランド、カナダ、アメリカに続き5位で通過。しかし3位カナダからは1.91秒差であり十分に決勝進出を狙えるポジションをキープする。第2クォーターでも中々前との差は詰まらず、逆に少しずつ離されていく。1000mの通過は3位カナダから4.03秒差に広がってしまう。このままズルズル遅れてしまうかと思われたが日本はここからさらに粘りを見せ、一度は離されかけたカナダとの差を詰めはじめた。しかし日本の前を行くアメリカもペースアップし1500mでは3位がカナダからアメリカに交代することになった。ラストクォーターでS林選手(日本大学)がギアを切り替えると日本の艇速がさらに上がりカナダとの差をぐんぐん詰めスタンド席を沸かせた。残念ながら抜き去ることはできず決勝Aへの進出は果たせなかったが、最後まで元気よくアタックし続けたレースは次のBLM4-クルーに勢いを与えることになった。



見送りの声援に元気よく応える日本:BLM2-手前からS林選手、B嶋田選手(共に日本大学)何かをやってくれる雰囲気満ちている



500m地点、先行するアメリカ(真中)、カナダ(手前)に食らいつく日本(奥)



必死に追いつける日本。
日本クルーは左からB嶋田選手、S林選手(共に日本大学)

17:35 BLM4- 準決勝A/B

スタートは多少出遅れたものの250m程度で持ち直しすぐにトップ争いに参加し500mを1位スペインと1.09秒差の3位で通過。第2クォーターに入ると日本のリズムが伸びやかになり前を行くイギリスと共にスペインを抜き去り2位に浮上する。このままセーフティリードを作りに入れるかと思ったが、世界での戦いはそれほど甘くはなかった。1000mを2位で通過すると第3クォーターでリズムの僅かなずれの間隙を縫ってイタリアが2位に浮上。日本は決勝進出ラインの3位に後退する。ラストクォーターに入るとこの種目でオリンピック過去3回金メダルを獲得しているデンマークの猛追を受ける。必死にスパートを入れ耐え凌ぐもののゴールが近づくにつれデンマークの勢いはさらに増していく。1位イタリア、2位イギリスから少し遅れて日本とデンマークがゴールに流れ込む。決勝進出をかけた激闘を制したのは日本であった。この大会この種目で3年連続となる決勝進出を果たした。



↑ スタートを待つ日本



100m地点の争い、奥から2番目が日本



1000m地点は2位で通過

1800m付近でデッドヒートを繰り広げる3位日本(奥)と4位デンマーク
日本BLM4-クルーは左からB志賀選手(日本大学)、2福井選手(東レ滋賀)、3荒川選手(一橋大学)、S佐藤選手(日本大学)



BLM4-が3年連続の決勝進出を果たすとともに、他のクルーも最後まで戦う姿勢を貫き通しチーム全体に勢いを与えています。明日からはいよいよU19クルーも登場しシニア、U23、U19の3カテゴリーの競演になります。ボート競技日本代表としては大選手団となるメリットを生かしチームJAPANとして全力で戦っていきますので引き続き応援よろしくお願い申し上げます。

